

自立支援協議会について

共通の目的に向け、情報を共有して、具体的に協同する
地域の関係者によるネットワーク & プロセス

「共通の目的」

- ◆「障害のある人が普通に暮らせる地域づくり」 全員が大きな共通認識を常にもちながら参加する。

「情報の共有」

- ◆地域の実態や課題等の情報を集約し、全員が共有する。原点は個別の支援会議。

「具体的に協働する」

- ◆参加者が抱える実際のケースや地域の課題を持ち寄り（個別の支援会議が重要）、制度や誰かのせいにするのではなく、全員が自らの課題として受け止め、ともに解決しよう、自分のところでは何ができるか、一歩でも前進しようというスタンスで協働していく。お客さんや評論家は不要。

「地域の関係者によるネットワーク」

- ◆利用者が抱える様々なニーズに対応していくためには、保健、医療、福祉、教育、就労等の多分野・多職種による多様な支援を、一体的かつ継続的に用意することが必要。
- ◆一事業所だけで用意できる支援には限界がある。そのことに気づけば、自ずと顔が見えるネットワークの必要性がわかるはず。
- ◆官と民が協働するシステムの構築。

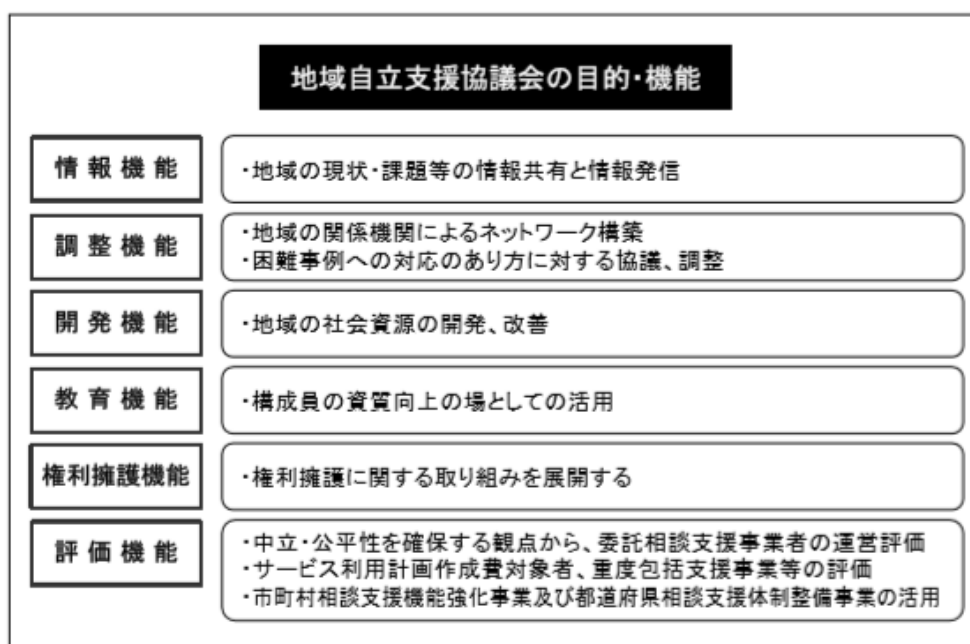


図 13 地域自立支援協議会の目的・機能（厚生労働省）

下野市地域自立支援協議会の構成図

